

南会津 のうりんニュース



平成16年7月（第74号）

今月の写真：「尾瀬のニッコウキスゲ」（檜枝岐村）

7月の中旬になりますと、尾瀬はニッコウキスゲが花盛り。大勢の観光客が訪れます。

この時期、ニッコウキスゲはずっと咲いているように見えますが、一つの花は、実はたった一日でしおれてしまうのです。ですから「昨日見た花は今日の花とは違う」のだそうです。

今月の内容：

- ・今月のトピックス
（南郷トマト選果場完成！）
（水路の生き物を調べました。）ほか
- ・ひとくち普及情報
（南郷トマトの収穫期を早める取り組みを進めています）
- ・私と南会津（千葉県柏市 藪崎康治さん）
- ・南会津の木のはなし（八幡のケヤキ（下郷町））
- ・今月のコラム（資源を活用しよう）
- ・農林事務所からお知らせ（コイヘルペスウイルス病のまん延防止に皆さんの協力が必要です）
- ・研修会・講習会等お知らせ

平成16年7月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

南郷トマト選果場完成！



（下写真）内部の様子

南郷村宮床に建設されたJA会津みなみトマト選果場落成式が6月13日、現地で行われました。

この選果場は、従来の施設が老朽化したことと、地域農業の振興のためには担い手となる経営体を育成し地域ぐるみで地域農業を変革する必要があることから、平成15年度経営構造対策事業により、約10億4千万円をかけ、整備したものです。

新しい選果場は、最新の選果システムや糖度センサーを持つほか、冬に降った雪で冷やす「雪室予冷庫」を備えたもので、年間に処理できる量は4,050t、畑に換算すると45haの規模となっています。

この施設が十分に活用され、「南郷トマト」のブランドがより一層強固なものとなるとともに、地域農業の中核施設として地域農業の変革に大きな役割を果たすものと期待されます。

（農業振興部）

水路の生き物を調べました。



南会津農林事務所では、平成13年度から水路等の施設を造る際、環境や生物の生息に配慮した工法などを採用するよう努めてきました。

今回、それらの施設での生物の生息状況を調査し、その効果を明らかにするため、南会津地方で平成13～15年度にかけて施工した、

和泉田地区（南郷村）や白沢地区（伊南村）など6地区の調査を行いました。

調査は6月10日と翌11日に実施し、それぞれの地区でコンクリート水路と環境配慮型水路の両方を調査しました。その結果、従来工法のコンクリート水路でも①常時水があつて、②河川等と自由な往来ができ、③生物が身を隠す、または休める場所があるなどの条件を充たせば、生物の生息が可能ではあることが分かりました。

しかし、環境に配慮した水路では準絶滅危惧種のトウホクサンショウウオなどが多数確認できるなど、生物の繁殖に非常に有効であることが確認できました。これは、環境に配慮した水路では生物が水路から自由に入出力できること、水路に適度に土砂が堆積するなどの働きを持っているためと思われまふ。（農村整備部）



こんな魚もいました。

「阿賀野川源流のつどい」開催される

会津流域林業活性化センター主催による「阿賀野川源流のつどい」が6月26日、下郷町の日影姫山国有林において開催されました。

これは、阿賀野川流域の方々に森林作業を通して、森林の担っている重要な機能や森林整備の必要性について、理解してもらおうと昨年に引き続き開催したもので、地元下郷町のみならず、中流域の会津地方、下流域の新潟県から約90名が参加しました。

参加者は、下郷町役場で開会式を行った後、バスで会場まで移動して昨年度植栽したスギ林の下草刈りを行いました。午後からは、地元の山菜取り名人を講師として山菜取りを楽しんだ後、「森林・川・海、地域連携」をテーマに意見交流会が行われました。

参加者は、それぞれの住む地域を結ぶ「阿賀野川」の源流地である南会津の豊かな森林の中で、その森林が育む水の大切さ、森林の恵みを体感していました。

なお、このイベントはうつくしまエコイベントの認定を受け実施しています。(森林林業部)



山も体験学習の季節です

先月には田植えの体験学習を紹介しましたが、この季節は山でも盛んに都会の中学生などの体験学習が行われています。

館岩村では、平成13年より「会津高原教育旅行誘致協議会」を設立して、首都圏からの体験学習の誘致に官民あげて取り組んでいます。その結果、今年は80校以上もの学校が訪れ、延べ約1万人が体験活動を行うそうです。

この日(6月8日)は、千葉県野田市にある川間中学校の生徒たちによる、キノコの植菌体験を取材しました。あいにくの雨模様でしたが、南会津農林事務所森林林業部の職員の指導により、生徒たちは約2時間、しいたけ、なめこ、まいたけの植菌作業を行いました。

作業だけでなく、森林の役割やキノコについての説明などもあり、普段の教室の中では見たり聞いたりできないようなことだけに、生徒たちは興味しんしんでした。

(森林林業部、地域農林企画室)



ひとくち 普及情報

南郷トマトの収穫期を早める取組み(収穫前進栽培)を進めています

南郷トマト生産組合長の酒井仁平さんの畑では、平年より1ヶ月早く6月23日から収穫が始まりました。このように早く収穫できるようになったのは、表のように播種時期を早めたのと、仮植後に使用する育苗ハウスの2重被覆化や定植ハウスのサイドビニール使用による保温効果のおかげです。

なぜ、この様な手間をかけてまで収穫時期を早めるかということ、市場の卸業者は、一定の期間中同じ産地から買う傾向が強いので、出荷時期を早めれば市場での南郷トマトの認知が早まります。そうする



ことにより、夏秋トマトの期間中に卸業者と取引のスタートラインに早く着け、販売が有利になるためです。

この方法は、同じ南会津郡でも気温が高い地域の方が有利なので、比較的標高の低い町村で取組みを広げたい栽培方法です。(農業普及部)

表 栽培時期の比較

	播種	仮植	定植	収穫
収穫前進栽培	3月6日	4月1日	5月3日~	6月23日~
慣行栽培	4月上旬	4月下旬	6月上旬	7月20日頃

私と只見との出会い

千葉県柏市 荻崎康治さん

私と只見との出会いは、十年前の柏市ふるさと交流協会事業の中で雪祭りを訪問することに始まりました。

豪雪の中では、町の人々はどんな知恵と経験で日々の暮らしを営んでいるのか、楽しみは何だろうと思いを馳せたのが昨日の事のように思い出されます。

さて、今年のまつりには柏市民応募者数、百六十名の中から抽選で三十名程が参加、民宿ふる里さんで行

【左写真】

写真の左側に写っている方が荻崎さんです。

荻崎さんは只見町の交流都市である千葉県柏市で「柏市ふるさと交流協会」の会長をしておられ、柏市と只見町との交流に多大な貢献をされています。



き届いた歓迎を受け、翌日は地吹雪の中、湯ら里の前庭でスノーモービル、かんじきを付けた競争、紅白雪玉入れ、雪だるま作り、最後に冷えた体を心まで温泉で暖めてバスに揺られ帰路につきました。

本当に中身の濃い経験をいたしました。

参加者のアンケートの結果にも熊汁にも驚き、幻想的な花火、厄行事のおんべに感激、シンシンと冷える寒さも忘れて、次回もぜひ参加したいとの声が多数を占めました。雪祭りツアーを無事終え、企画・運営を担当しました会員それぞれが安堵と達成感で充実した喜びを味わいました。

四季を通じて目にも鮮やかな新緑、秋の山紅葉、手打ち蕎麦に舌鼓を打ち、むら湯に身を委ね、決して街では味わうことの無い空間を大切にゆぎたいと考えています。

なお、交通の便がもっと良くなり旅館、民宿や温泉へと整備されれば、気軽に只見へ訪れる人も益々増え、年間を通じて活気ある町になるのではないのでしょうか？



南会津の木のはなし

八幡のケヤキ (中山の大ケヤキ)

(下郷町中山)

(下郷町事業課)

下郷町中山地区にあるケヤキは、樹齢約1000年、樹高36mある大木です。樹形の良さも県内屈指で、県の緑の文化財にも登録されています。

このケヤキは、「天喜3年(1055年)、人皇第七十代後冷泉天皇の御代、八幡太郎義家が、陸奥の豪族阿部貞任を討伐の折、険路で難渋して、中倉村の司、二宮太郎兵衛宅に休憩した。二宮氏は、手厚く歓待して、大沼郡、尾岐村に至る間道を教えたため、賊軍不意を討たれて敗北した。八幡太郎義家は大いに喜び、謝礼のしるしに庭先にケヤキを植えた」と伝えられています。



資源を活用しよう

先日、都会から来た方に「南会津の印象」について尋ねた。彼曰く、「南会津は田舎らしい田舎だね。首都圏からこんなに近くて自然がいっぱいの所は、他にないんじゃない。驚きとともに感動ものだね。」とのこと。

かつての列島改造の中で、「よくぞ、自然を守りとおした」と誉められたのか、「取り残された」とけなされたのかは定かではないが、ともかくも都会の人に感動を与えられる自然を維持しているのは確かである。私たちは、人に感動を与えるこの自然を守りながら、もっともっと活かす道を探求すべきではなからうか。

幸い、南会津にはこの自然をベースにした観光、レジャー、スポーツ、グリーン・ツーリズムなどを



目的に訪れる方々が、年間約300万人いる。この方々をターゲットに、例えば国道沿いに「直売所や観光〇〇園などの観光農業」を今以上に起こすとか、当管内の93%を占める森林資源の新たな活用を考えると、いろいろな道を早急に推進する必要があると思う。

単純計算で恐縮だが、300万人の方々が、農産物に一人あたり千円使っていただくと、それだけで30億円になるのだから・・・（ちなみに当管内の平成14年度農業産出額約52億円）。

（地域農林企画室長 斎藤 康博）

農林事務所からお知らせ

コイヘルペスウイルス病のまん延防止に皆さんの協力が必要です

コイヘルペスウイルス病に感染したコイが、川や湖、公園の池、水路などから全国で見つかっています。最近では県内の阿武隈川で見つかりました。

この病気が広がるのを防ぐには、皆さんのご協力が必要です。もし異常なコイを見つけた場合は、福島県内水面水産試験場までご連絡ください。

次のことを守ってください

- 皆さんが釣ったり、飼ったりしたコイを、河川などに放したり、捨てたりすることは、絶対にしないでください。

※なお、この病気にかかる魚はコイ（マゴイとニシキゴイ）です。人に感染することはありませんし、食べても人に影響はありません。

連絡先：福島県内水面水産試験場 生産技術部
（耶麻郡猪苗代町（電話：0242-65-2011））



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①トラクタ運転免許	8月2日（月）～5日（木）	農業短期大学校（矢吹町）
②わくわく親子農産加工体験	8月4日（水）	農業短期大学校（矢吹町）
③農家レストラン等でのメニューづくり	8月26日（木）	農業短期大学校（矢吹町）

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100

PRINTED WITH SOY INK

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。